

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101652	
法人名	社会福祉法人 明恵会	
事業所名	グループホームふれあい	
所在地	〒030-0915 青森市小柳1丁目17番17号	
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	令和2年12月14日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「私たちは笑顔と優しさをモットーに、その人らしく安心して暮らせる生活を提供いたします」を毎朝唱和し 現場で迷ったときは、理念を思い出し、利用者様が安心して生活できるように努めています。また、一人ひとりのペースに合わせた生活を大切にしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中に事業所があり、職員は日々理念を基に利用者とのコミュニケーションを図ることを重点に置いた支援が実践されている。また、地域の災害避難所の指定を受けたり、夏休みには事業所敷地内で子供たちがラジオ体操するなど地域に必要な場所となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	<input type="radio"/> 1. 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	<input type="radio"/> 1. 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 1. 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/> 1. 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示するとともに、毎朝の申し送り後に唱和することで全職員が意識して現場で悩んだ時は理念を思い出し実践することができるようになっています。	毎日朝会時に理念の唱和を行い共有を図っている。業務遂行時に悩んだ時は、基本理念の意味と地域密着型サービスの意義を再確認し、日々のケアの実践につなげている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は感染防止のために利用者様は地域の方々との交流を自粛しておりました。	コロナ感染予防の為地域との交流は自粛しているが、例年であれば町内会のゴミ拾いや敬老会への参加、近隣の神社への参拝や縁日を楽しんだりと日常的に交流が図られている。夏休み期間は、小学生等に朝のラジオ体操の場所を提供するなど地域への貢献も行っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年では運営推進会議を通して、認知症について理解いただけるように伝えたり近隣の大学生や養護学校の生徒さんの実習を受け入れていましたが、今年度は感染防止のために自粛しています。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況や活動内容の報告して、評価やアドバイスを受け、サービスの向上に繋げるよう意見を反映しています。また外部評価結果も報告しています。	コロナ感染予防の為、書面でのやりとりとなっているが、会議の出席者から行事の余興のアドバイスを受けるなど、サービスの向上に反映されている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事は直接青森市に出向き指導を受けるようにしています。	日常的に相談できる関係が築かれており、電話以外にも直接出向いて相談することが多く「顔の見える関係」を大切にしている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみです。全スタッフが身体拘束については、勉強会で学習しており、周知しています。また日々の業務で身体拘束をしていないか職員同士で再確認しています。	身体拘束に係る指針が策定されており、3ヶ月に1回開催される委員会内で、日々のケアの振り返りや内部研修を企画し全職員への学習の場を提供している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強をし、どんなことが虐待になるのか、職員間で意見交換して虐待はあってはならないことと、全員が周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後継人制度を利用しているケースがなく権利擁護に関する学習会を行っていませんが、今後計画して取り入れていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は捕捉しながらわかりやすく説明しています。また、不安な事や疑問等に答え理解、納得して安心して利用できるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告をしたり、積極的に話しかけ家族からの意見や要望等を聞き出しその内容を職員全員で共有してケアに繋げています。	家族にはコロナ感染予防の為、面会自粛をお願いしているが、利用料支払い時に来所して頂きその都度要望等を確認している。必要に応じ話し合いの場を設けるなど、意見・要望の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、日々の業務で意見が出た時は全職員で話し合い検討後、理事長に報告し運営に反映させています。	毎週開催される管理者会議にて、職員からの提案が検討されており、日々のケアに必要な物品の購入やケアに専念してもらう為に調理員を雇用するなど職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長指示のもと、認証を取得するためにセミナーに参加しています。その内容の報告を受け働きやすい職場作りに取り組んでいる最中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は職場内外の研修参加等に理解し支持してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際、情報交換しサービスの質の向上に繋げています。また圏域内のグループホーム交流会の取り組みを理解してくれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には自宅に訪問し在宅での生活を見たり、聞いたりします。また本人の希望や思い、不安等を聞き取りニーズに応えられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族の思い不安な事や要望等を伺い受け止めます。また面会時等は様子を報告したり気になる事等を伺い信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族からの意向や情報を伺い、それをスタッフ間で共有し話し合い必要な支援を見極め適切なケアができるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じたサービス提供や役割をもった生活をして頂くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子を手紙に記載して郵送しています。またご本人の要望を叶えるために面会要請や電話連絡等のご協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限があるので、直接会っての会話やスキンシップは、とれないが、窓越しで、顔を見て筆談や電話等での話をしています。今後はリモートでの面会が出来るように考えています。	コロナ感染予防の為、面会や外出などに制限をかけざるを得ない状況であるが、例年であれば、家族の協力も得ながら、馴染みの美容室やスーパーへ外出したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しA、B棟共に交流を図り、お互いが助け合える場面の提供や仲介等で、よりよい関係が築けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談に応じることを伝えています。また退所後も病院等に面会に行ったり相談を受けたりします。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの他、入浴時、居室訪問時等で、本人の訴えを傾聴する時間を作り、希望や意向を伺う。また意思伝達が困難な時は生活歴や家族から情報を収集してその人らしい生活が出来るように努めています。	職員の業務の中に傾聴する時間があったり、コミュニケーションに専念できるよう調理員を雇用するなどの環境づくりや工夫がされている。その中で出た希望や意向は、引継ぎノートで職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や職歴、サービス利用までの経緯の他、担当ケアマネや本人、家族からの情報収集しサービス提供に繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を申し送りや介護日誌等で生活リズムや心身状態を把握し、スタッフ間で共有するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を把握して本人、家族の要望を確認し介護計画に反映できるようにしています。	定期的なモニタリングが実施され、本人の意向や家族の要望を反映し介護計画が作成されている。また、同時期にアセスメントも実施され本人の現状把握にも努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活状況の記録は個別記録、介護日誌に記載されみんなで共有しています。また変化があれば、都度カンファレンスを開催し介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状況に応じ、必要なサービス提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の情報を得て活用できるものを選んで参加できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った、かかりつけ医継続のためご家族の協力を得ながら送迎支援をしたり、受診したりしています。また受診の必要時、受診結果等、都度家族へ相談、報告をしています。	契約時かかりつけ医を確認し、意向に沿った受診支援を家族の協力を得ながら行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが、看護師に利用者の健康管理について相談し支援を仰いでいます。必要な時は受診に同行し適切な看護が受けられるように支援してくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族、病院関係者と連絡を密にして状態に応じて話し合い早期退院に向けた関係作りを行っています。また退院後も安心して生活できるように相談や連絡をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいく	重度化した場合には、ご家族と十分、話し合い今後の方針は主治医、家族と一緒に考えていく姿勢を示しています。	重度化した場合や状態の変化があった際は、その都度主治医・家族と話し合いの場が設けられ今後の方針等を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	急変時や事故発生時に備えて学習したり、マニュアルの確認や申し込み等で、確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災や災害を想定した避難訓練を実施しています。理事長は消防団の団員の為連携も取れています。	地域のハザードマップを基に年2回、想定される災害訓練を行っている。代表者が消防団に所属していることもあり連携が図られている。事業所自体が地域の避難場所に指定されており、非常食等も2週間分備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないように気を付け尊重をもった対応を心掛けています。	接遇に関するマニュアルが作成されており職員間で周知されている。また、内部研修も毎年開催され、職員間で振り返りが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、ご本人の希望や思いを探ったり、遠慮せず話せるよう配慮しています。また日常の中でも利用者様が選択できるような声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、一人ひとりのペースに合わせて過ごして頂けるように、環境、雰囲気作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活で着たい服、化粧等いつでも自分で出来る環境を作っています。自分から出来ない方には、こちらから鏡、ブラシ、口紅等準備して身だしなみや、おしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りの時にそれぞれの好みを聞き反映させています。また誕生日には、ご本人の好きな献立にしています。配膳や下膳、おしごりいたみ等の役割をお願いしています。	日々の会話から好みや希望を把握し、メニューが作られている。また、利用者の誕生日には、誕生者の希望メニューを出してお祝いをするなど食事を楽しめる工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別で食事量、水分量、体重を記録し把握しています。状態に応じて捕食や食事形態を変更し対応しています。また職員は情報を共有し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして全利用者が行っています。必要に応じて職員が援助し、清潔保持に努めています。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けトイレ誘導しています。また排泄用品も個別に合わせて準備したり、夜間は個々の状態により、ポータブルトイレを居室に設置する等しています。	排泄の介助が必要な利用者には、排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを職員が把握し適時に声掛けが行われ自立に向けた支援が行われている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排便量、水分量、食事量の把握に努め飲食物の工夫や毎日の体操の他に個々に合わせた運動の働きかけを行っています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時間、温度は本人の好みに合わせて対応しています。1対1でコミュニケーションを取りながらやうつたりと入浴できるようにしています。また体調不良で入浴できない時は別の日に入浴して頂いています。	週2回入浴が行われているが、受診等の個々の予定に合せた柔軟な対応を実施している。また、個々の好みに合わせた湯船の温度設定や入浴中一緒に歌を歌うなど入浴を楽しむ工夫もされている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて自由に睡眠、休息がとれるようにしています。また居室の温度、照明にも配慮し、就寝、起床時間もその人のペースに合わせています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方内容をファイリングし、変更時は職員間で申し送りします。服薬前には複数の職員で氏名、時間、薬の数に間違いがないかを声を出し確認し、誤薬がないように支援しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご本人が得意とする洗濯たたみや、おしぶりたたみ、モップ掛け等個々にあった役割を持って頂いています。また、天気の良い日は散歩をして気分転換を図っています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は外出できないので、園内の散歩やホーム内での行事や夏祭りを行い楽しんで頂きました。	コロナの感染予防の為、外出等を制限しているが、本来であれば近所の公園へ花見をしたり、天気の良い日は、外気浴を兼ねて外で昼食やおやつを摂ったりしている。また、その日の希望を大事にしており、希望が聞かれれば出来る限り買い物やドライブ等を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し自己管理が出来る方には、少額のお金を持参し管理してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、いつでも手紙を書いたり、電話で話したりすることが、できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月みんなで、壁画制作を協力し合い作り、季節を感じて貰えるように工夫しています。また喚起や消毒を徹底し感染防止対策に努めています。	共有する空間内は、木目調で季節を感じられる作品が飾られている。居間にはソファがあり、利用者がくつろげる工夫もされている。事業所内は、床暖・パネルヒーターで冬も暖かく加湿器等で湿度管理も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	A. B棟自由に入り出しができ、楽しく団欒できるようにソファーや食席で自由に過ごしていただいている。一人になりたい時は居室や玄関ベンチで過ごす方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛着のあるもの(鏡台、位牌、写真、置物等)を持ってきていただき安全かつ居心地よく暮らせるように工夫しています。	全居室にエアコン・パネルヒーター・タンス・ベッドが備え付けてある。入居時に自宅で使用していた愛着のあるものを持ち込んでいただき居心地のよい居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレを把握できない利用者には、本人がわかるように目印をつけ環境整備している。利用者の状態に合わせて安全に生活できるように利用者、家族に了解を得て居室替えも行っています。		